

# 思 いやり

## トレーラー運転手 (35歳)

以前、何の本かは忘れましたが、「と急いでトレーラーを運転して  
「大きなミスには、その根底に  
いくつもの小さなミスが積み重  
なり起きる。」

と書かれています。記事を目にした  
ことがあります。

私が今、服役している理由は、  
交通事故により人の命を奪って  
しまったことであり、とても、ミ  
スという言葉で表現して良いも  
のでは無いことは、重々承知して  
います。

事件前、当時私は、仕事も順調  
で、プライベートでも新しい場所  
に住まいを移し、まさに順風満帆  
という具合で、妻に家事、育児の  
全てを押し付け、自分の思ったと  
おりに生活し、今思えば、好き勝  
手し放題で、調子に乗っていまし  
た。

暮れも押し迫るある日、私は、  
日ごろ家族サービスを疎かにし  
ている手前、早く帰宅し、クリス  
マスに家族揃って美味しい物で  
も食べようと、早く家路に着こう

と急いでトレーラーを運転して  
いました。

会社からは、「年末は人も車も  
慌ただしくなり、事故も増えるの  
で気をつけて運行するように。」  
と言われましたが、私は、「こんな  
時期か、毎年恒例の決まり文句  
だ。」くらいの気持ちでいて、その  
まま聞き流していました。

会社まで後1時間ほどでした  
が、12月の夕方は、もう暗く余計  
に気持ちを焦らせていました。し  
かし、いつも通り慣れている道路  
なので、そこまで注意を払って運  
転していなかったと思います。

いつもの交差点に差しかかり  
ましたが、対向車も随分先に見え  
たため、今なら余裕で右折でき  
ると思い、右折したところ、軽トラ  
ックを止めて人を降ろしている  
のが視界に入り、「こんな所に止  
めんなよ。」と考えながら通過し、  
今となれば歩行者を確認してい  
ませんでした。

それから5分も経たないうち  
に、ミラーにパトカーが映るのが  
見え、その後、真横に並び車の停  
止を指示され、私自身、なぜ？信  
号でも無意識に無視したか？と  
いろいろ考えながら車を停止さ  
せました。その後、何台ものパト  
カーが来て、これは只事でないと  
感じ、トレーラーの後ろの部分を  
覗きこむ警察官を見た時、「えっ、  
事故を起こした？」と自分を疑  
い、パトカーの車内で何が何だか  
分からなくなり、外で、「通行止め」  
と言う声が聞こえた時、一番最悪  
な結果だとすぐに理解すること  
ができました。そして、その夜、  
取調べの後に逮捕となりました。

その時、私が予想していたよう  
に、相手の方が亡くなられたこと  
を聞き、事故を起こした認識もな  
い為、余計にその事の重大さに恐  
怖し、家族も何もかも失ったと思  
いました。時期が時期だったので、  
全国で一斉に報道されました。私  
の家族も、逮捕勾留中に妻の実家  
へ移り住むことになったほか、子  
供たちも転校をしなくてはなら  
ない状況になり、両親、会社を含  
め、たくさんの人たちの人生を変  
えてしまいました。

被害者のご遺族の方へ留置所

から手紙を送らせさせて頂きまし  
たが、返事をいただくことができ  
ず、直接謝罪する機会も、まだで  
きていません。裁判中も事故を起  
こした認識がなく、ひき逃げの罪  
は不起訴だったとはいえ、ご遺族  
の方から見れば、「ひき逃げ」に変  
わりはないと思われているはず  
です。

判決は、禁錮2年、自動車運転  
過失致死罪を言い渡されました。  
ご遺族の方の言葉以上の厳しい  
視線が突き刺さり、お亡くなりな  
った被害者の方は、私の一方的  
な身勝手な運転で最愛のご家族  
との突然の別れを迎えられ、しか  
も救護されることなく、その場を  
立ち去った私を殺してやりたい  
と思われていると思います。

私は、教育指導の中で、事故で  
家族を亡くされたご遺族の方か  
ら、「加害者は遺族に対して謝罪  
や行動をしていると感じるが、被  
害にあって亡くなった方への対  
応を考えて欲しい。」と言われた  
時に、私はそれまで謝罪のための  
謝罪をしようとしていて、被害者  
の方やご遺族の方たちと向き合  
っていない一方的な謝罪をしよう  
としていたことに気付きました。

思えば、今まで身勝手に生きて  
きて、他人に対し思いやりが欠如  
していました。この事件でいろん  
な物を失いましたが、こんな私に  
「一緒に償っていきましょう。」とい  
待ってくれている妻子がいて、人  
を思いやること、感謝することに  
気付かされ、失ったばかりでは無  
いことにも気付かせてくれた受  
刑生活でもあります。思いやりを  
持って、人に優しい運転をしてい  
れば、このような結果にはならな  
かったはずですが。今後、社会へ戻  
り、一生終わることの無い償いの  
日々を送りますが、思いやりの気  
持ちは忘れず、ご遺族の方の心情  
を理解し、誠意を持って償いをさ  
せていただたくつもりです。

そして私の経験を基に、私の周  
りの人たちに交通安全の願いを  
伝えていこうと思います。

「贖いの日々」第50集より抜  
粋  
転載・二次使用禁止します。